

クローズアップ内視鏡医

ららぽーと横浜クリニック院長

大西達也先生

最高水準の専門的医療 サービスを地域の人々に 身近な場所で提供したい



湯城先生に学んだ挿入法が 内視鏡医としての原点

——先生と内視鏡との出会いについて教えてください。

大西 1997年に大学を卒業し、東京大学医学部附属病院大腸肛門科で外科の研修医としてスタートしました。内視鏡に出会ったのは入局して2～3年目くらいの時期で、日立総合病院に勤務しているときでした。当時は消化器を中心にさまざまな分野の手術に明け暮れる毎日でしたが、いずれ内視鏡も上手になりたいと思った記憶があります。

——その後内視鏡へと大きくシフトされたわけですが、何か理由があったのですか。

大西 日立総合病院には3年間勤務したのですが、外科医一人あたりの手術件数がとにかく多く、最後の頃にはほとんどの外科領域の手術がこなせるようになっていました。しかし、がんを中心とする外科手術の場合は、執刀医によって合併症率や5年生存率などに大きな違いが出るということは少なく、患者さんからも違いが実感できません。それに対して内視鏡の場合は、楽な検査か苦しい検査か、術者の技量の違いがダイレクトに患者さんに伝わるので、その分医師としてのやりがいがあると考えたのです。

——内視鏡の技術については、どなたかに指導を受けられたのですか。

大西 大学病院に戻って内視鏡に専念していた当時、大腸内視鏡の技術で医

局全体に認められていたのが、千葉の玄々堂君津病院にいらした湯城宏悦先生でした。約4年間、無理にでも時間を作っては千葉まで通い、湯城先生に「内視鏡検査の基本操作」「痛くない」「速い」挿入法を徹底的に指導していただきました。

——その後、内視鏡医としての大きな転機はありましたか。

大西 内視鏡医としてある程度自信が付いた頃に、大腸肛門科の専門病院として有名な東葛辻仲病院に見学に行き、そこで大きな衝撃を受けました。4つの検査室で同時に大腸内視鏡検査が行われており、これまで私が学んだものとは異なったノウハウで素早くスムーズに挿入されていたのです。早速、見学から1ヵ月後には非常勤医として勤め始め、大学病院を退職後は常勤医として東葛辻仲病院に勤務し、「専門病院の大腸内視鏡挿入法」を学び取りました。勤務中に同僚医師の挿入法を傍から観察するだけでも毎日新たな発見や確認があり、帰宅してからも、大腸の解剖学に基づいた「理論的に究極の大腸内視鏡挿入法」とは何かを常に考えては次の日の検査で実践する日々で、私の技量が最も急速に進歩した時期だと思います。その結果、いくつものプレイクスルーを経て、独自の大腸内視鏡挿入理論を生み出し、ネット上に公開するまでになりました。

身近な場所で最高水準の 内視鏡検査を実現

——クリニック開業の経緯について教えてください。

大西 東大病院に戻って内視鏡診療を専門に行うようになり、ある程度内視鏡の技術に自信が付いた頃から、将来的にはクリニックを開業し、自分の技術や名前でも患者さんを集められるようになりたいと考えていました。

——なぜららぽーと横浜という商業施設を選んだのですか。

大西 まだまだ内視鏡検査を敬遠する患者さんは多いので、「楽な内視鏡検査ができる」ということを広く周知する必要があり、そのためには人通りが多いというのが第一条件だと考えました。駅前なども有力な候補地ですが、単に駅前というだけでは、人通りが多いとは限りません。その点ここは、ららぽーと横浜という大型商業施設の駐車場出入口横という、常に人通りの絶えない場所です。さらに、院内外のモニターで、内視鏡検査の必要性和その実際を啓蒙することができるため、内視鏡検査や肛門の日帰り手術などの専門的な診療を行うクリニックとしては、まさに理想的な場所だったのです。

——診療方針やクリニックのポリシーは。

大西 当クリニックの特徴は、ショッピングセンターというアクセスの良い場所で、「最高水準の内視鏡検査」「肛門科の日帰り手術」といった広域患者向け専門診療と、内科・皮膚科といった地域患者向け一般診療を両立している点にあります。内視鏡システムには、オリンパスの最上位機種であるEVIS LUCERA SPECTRUMを導入。NBI(狭帯域光観察)やAFI(自家蛍光観察)といった最新の画像解析技術を応用した、高度な診断が可能です。そして大腸検査に関しては、これまで習得してきた挿入法を独自に改良して苦しくなく優しい内視鏡検査を実現しています。また、上部に関しても経鼻挿入可能なGIF-XP260Nを導入することで、咽頭反射のない楽なスクリーニング検査を実現しています。診療のポリシーは「最高に優しい医療は最高の技術からなる」です。楽しいトークや笑顔で患者さんに接することだけが優しさではなく、自らの技量を最大限に突き詰めた医療を行うことこそが真の意味での優しさであるという信念です。

圧倒的な内視鏡検査実績

——その他に患者さんのために工夫されている点がありますか。

大西 休日に人出の多い商業施設の中にあるので、地域のインフラとしての役割を考慮して、土日や祝日も診療を行っています。患者さんの平均年齢は40歳弱位ですので、仕事の都合で平日に来院できないという方も多いという理由もあります。他には、大腸検査では腸内をきれいにしておく必要がありますが、自宅のトイレの方が落ち着けるという患者さんも多いです。そこで当クリニックでは、洗浄液を自宅で服用しトイレを済ませてから来院してもらうという方法を、患者さんの希望によって採用しています。また、上部と下部を続けて検査しても苦痛なく検査終了し、検査時間は20～30分程度なので、上部/下部両方を希望される患者さんが多いのも特徴です。口コミで、北海道から沖縄まで全国各地から患者さんが集まっている結果、現在の診療実績は、上部年間3,000件、下部年間3,500件、痔の根治術年間1,000件に上っています。この数字は医師一人が行う件数としては突出していると思います。

——集患についての工夫は。

大西 ホームページの充実やブログによる情報発信など、インターネットを活用した啓蒙・広報活動には積極的に取り組んでいます。

——他の医療機関との連携は。

大西 東大病院との連携はもちろん、東葛辻仲病院についてはサテライト的な役割も果たしています。また、横浜労災病院や昭和大学横浜市北部病院、藤が丘病院など、地域の中核病院に紹介できる体制を整えています。

——お忙しいところありがとうございます。

(2008年9月12日、ららぽーと横浜クリニックにて取材)



JR横浜線・鴨居駅から徒歩7分のららぽーと横浜は、スーパーや各種専門店、飲食店、映画館などを備えた横浜でも最大規模の複合型ショッピングセンターです。この大型商業施設の中にあるのが、内視鏡検査・治療を中心としたららぽーと横浜クリニックです。院長の大西達也先生は、最高水準の内視鏡医療を身近な場所で提供したいと考え、この場所に開業しました。今回は、内視鏡医としてのご自身の歩みや、クリニック経営の考え方などについて語っていただきました。

施設概要

【施設名】ららぽーと横浜クリニック
【所在地】神奈川県横浜市都筑区池辺町4035-1
【診療科目】胃腸科、肛門科、内科、アレルギー科、皮膚科
【設立年月日】2007年3月15日
【院長】大西 達也 先生
【病床数】0床
【診療時間】9:00～13:00(午前)、17:00～19:00(平日午後)、14:00～17:00(土曜・日曜・祝日午後)、火曜休診
【内視鏡検査数】年間約6,500症例(上部:3,000症例、下部:3,500症例)
【ホームページ】http://lala-clinic.jp/

PROFILE

【生年月日】1971年12月22日生まれ
【出身地】兵庫県
【学歴】1997年東京大学医学部卒業、同大学医学部大学院(医学系研究科)修了。
【職歴】1997年東京大学医学部附属病院大腸肛門科に入局。日立製作所日立総合病院、東葛辻仲病院などを経て、2007年3月より現職。
【趣味】スポーツ観戦(アメリカンフットボール、野球)、旅行



検査後はストレッチャーで、上部に大型モニターが設置されたクリニック受付。

